




こどもボランティアスクール

7月からの半年間、学校や学年の異なる子ども（市内小学5・6年生）が互いに協力し合い、体験学習を行いながら「ふくし～だんの らしの あわせ～」について学びました。

【高齢者疑似体験】7月



高齢者疑似体験セットを装着し、80歳の自分にタイムスリップ。腰が少し曲がり、手足は思うように動かせず、視界も狭くなり、動くのがおっくうになりました。未来の自分を体験し、高齢者はなぜ動作が遅くなるのか、どういう時に手助けが必要かを学び、今の自分に何ができるかを考えました。

【盲導犬教室】7月

目の不自由な方の外出を助ける盲導犬。目が不自由で外に出て歩くことが怖くても、盲導犬と一緒になら安心です。階段や信号などの前では立ち止まり、パートナーにこの先に何かがあることを教えます。間近に見て、その働きぶりに感動しました。



【障害のある方との交流】9月(カレー作り)、11月(フロアバレーボール体験)



目や耳の不自由な方と一緒にカレーを作りました。耳が不自由な方には身振り、手振り、目が不自由な方には声で正確な情報を伝える。簡単なようでもごく難しかった～。また、フロアバレーボールではアイマスクをして実際に試合もしました。目が見えないとボールの位置も把握できず、苦戦しました。



【地域の福祉活動をお手伝い】10月

赤い羽根共同募金の街頭募金をお手伝いしました。実は「こどもボランティアスクール」は、昨年度に集まった共同募金の一部を利用して開催されています。共同募金の使い道や、重要さを理解し、来年度のために一生懸命がんばりました。募金をしてくださった多くの皆様、ご協力ありがとうございました。



【ボランティア探検隊】12月



車椅子に乗りながら一宮駅周辺を探検し、街の中にある「やさしさ」について学びました。普段何気なく通っている駅の改札口も、実は1ヶ所だけ車椅子のままでも通れるように幅が広がっていたり、中央図書館では目の不自由な方のために、朗読サービスを行う部屋が2部屋あることなど、いつもとは違った目線で、たくさん発見することができました。

このスクールでの体験を通して、半年間で障害についても正しく理解し、『心のバリア』をなくすことができたと思います。学んだことは忘れることなく、ぜひ今後の生活に活かしてほしいです。